

量子の不思議

内田 智士

はじめに

二年前の『倫理研究所紀要』には、「粒子・もつれ・人間の意思決定」というテーマの論考を投稿した。⁽¹⁾その内容の大部分は、物質（特に微粒子）同士の「量子もつれ」に関してであった。「もつれ」とは空間的に離れた物質同士がある意味で「つながっている」ことを示す現象である。偶然ではあるが、その年の十月には「もつれ」に関する研究を主導してきた三人の物理学者（アラン・アスペ、ジョン・クラウザー、アントン・ツァイリンガー）に対して、ノーベル物理学賞が与えられた。このこともあつてか最近、「もつれ」現象について世間での関心が高まっているように見える。

本稿では前回の投稿の続きとして、「もつれ」現象を含めていわゆる量子的な効果や現象の不思議さと、その生命への影響（の可能性）について述べていきたい。